



10月31日（月）只見中学校 子どもが作る『弁当の日』

子どもが作る『弁当の日』とは？ ただの『弁当の日』ではなくて、子どもが

①献立、②買い出し、③調理、④弁当箱詰め、⑤片付け

そのすべてを、子どもがやるのが『弁当の日』です。

「感謝の気持ち」、「自立心」、「子育てが楽しいと将来、思える心構えと経験」、そして教室内でお互いの頑張った弁当を見せ合いながら「友情」が育ちます。どうぞ保護者の皆さん、手を出さずに見守っていただければと思います。

生徒調査 一人で誰の手も借りず、家族分、ごはんのみそ汁の朝ごはんを作れる。

【結果】 日本全国の小学生、中学生、高校生では、どの段階も「すべて1%」

♥只見中生 30人ができる(36%) ⇒ 3人に1人はできる

《9月27日（火）竹下和男先生によるPTA食育講演会の生徒感想より》



【生徒の感想から】

《1年生》

いつも迷っていた弁当づくり。でも、講演を聞いて、中身より作る思いや作ろうとする姿勢が大切だと思った。今度のお弁当ではいろいろな料理に挑戦します。

シンプルに感動した。こんなに素晴らしい講演を聞いたことに関してとてもうれしく思っている。「生きる」を考えたい。

家族にしてもらっていたことが、当たり前でなく、すごく幸せなことだったと気づくことができて良かったです。今日から一人で料理をしてみる機会を増やしたいです。作れなくて当たり前だと思っていたが、家族に感謝して自分からご飯を作りたいと思いました。自分は人の笑顔が大好きなので、今日、学んだことをいかして生活したいです。

私は、「はなちゃんのみそ汁」のスライドを見て泣きました。改めて親の大切さを理解することができました。…私は、親にもらった愛情を自分の子どもにも伝えていきたいです。家事も少しずつやりたい。こんなに心に響く講演は初めてでした。一生忘れません。

講演をしていただきありがとうございました。こんなに感動する講演を聞いたのは初めてです。親に対する気持ちが改まりました。これからは親に言われたことも快く引き受けたいです。本当にありがとうございました。



私は弟のことをうるさく、じゃまな存在だと思っていました。しかし、今回のお話を聞いて、そのじゃまな存在を「+」に考えて、弟がいることはたくさん遊べていっしょにいられると考えました。料理も、子育ても「+」に考えると生活やこれからの人生が楽しくなるのかなと思いました。

私は3ヶ月に1回は家族のためにご飯を作っています。でも、少ない方だと思いましたが、ご飯やみそ汁を作れない人が多いことにも驚きました。・・・親は子どもの鏡だと思って、どんなに苦しくても自分の子どもは大切に育てて幸せにします。今日はありがとうございました。



「お弁当は作れないから、親に作ってもらおう」と思っていました。しかし、竹下さんの話から上手いかななくても作ってみようと思いました。講演の前、「ヒトが人になるのと食は関係ない」と思っていたのですが、しっかりとしたデータや体験談をもとに話していただいたので、とても分かりやすかったです。

私はふだん料理をしません。ですが、先生のお話を聞き「子育てが楽しくてしかたがない」ということの素晴らしさがとてもよく分かりました。お母さんや家族に感謝の気持ちをお弁当で伝えたいです。

《2年生》

給食がない日に、母がお弁当を作って持たせてくれるのが当たり前だと思っていましたが、当たり前のことではなく、感謝すべきことだと思いました。私は、よく母がしてくれなかったことを考え、母を責めてしまいます。でも、これからはいつでも感謝して生きていきたいと思いました。

食事を作る、台所に立つということは、勉強をすることと同じくらい大切なことだと、そして、それはこれからの人生に深く関係してくることだと感じました。やっていきたいと思いました。ありがとうございました。

高校生になると毎日弁当になると思うので、今から自分で作ってみようと思います。できるだけお母さんの力を借りずに作りたいです。

僕は手作り弁当の日が、人の成長にいろいろなよい影響があることが分かりました。今度は、自分で積極的に弁当を作りたい。そして、将来、自炊できるようになりたいです。

「料理する楽しさは身に付けることができる」、「感謝の気持ちが成長につながる」、「小さい失敗は、たくさんしたほうがいい」、「当たり前の状態をつくる」など、たくさん学んだ。私は、失敗して恥ずかしい思いをしたくないと挑戦することが少なかった。たくさん失敗して成長していければと思います。料理をすることが多いので、これからも料理を楽しんでいきたいと思います。

私は親が子どもを産んだのに売ろうとすることにびっくりしました。はなちゃんが母親を亡くして一人で食事を作るのがすごいと思いました。私は家族に食事を作ることはありませんが、これからは弁当を自分でつくれるようになりたいです。

僕は、ご飯は作ってもらるのが当たり前と思っていました。しかし、はなちゃんの話聞いて、いつもご飯を作っている子がいることを知り、この考えはいけないと思いました。なので、これからは、しっかり感謝の気持ちもち、ご飯を食べたいです。

はなちゃんの話は胸がとても痛くなりました。今までの弁当づくりでは、言われたことをするだけでしたが、今度からはメニューを考えたりするところから全部やってみたいです。もっと料理する機会を増やしていきたいです。

《3年生》

引きこもりニートの多さに驚いた。自分は小学校の時、一人で朝ご飯を作れるようになったが、はなちゃんの話聞いてすごいと感動した。小中高と一人で朝ご飯を作れる人が1%しかいないということにも驚いた。

「子どもがかわいいという気持ちは子育てによって生まれる」、「非認知能力を育てず、認知能力だけだとヒトでしかない」、自分は親に大切に育ててもらったので、その気持ちを子どもに注いであげたい。「弁当の日」のプロジェクトが、もっと広がってほしいと思った。

弁当を自分でつくることで非認知能力が育ち、より良い人生を送ることができることを知りました。久しぶりに料理がしたくなりました。

勉強するよりも人に喜んでもらうことが一番成長できると分かった。特に、料理をすることで喜んでもらって、また作りたいという気持ちになって成長できることが分かりました。自分で料理を作ってみたいと思いました。





はなちゃんの話聞いて、自分の死が近づいているのにもかかわらず、台所に立たせ、将来、子どもが困らないようにしたことに感動した。そして、引きこもりニートが多くて驚いた。今は男女平等の世界だから男の自分でも一人で料理や家事ができるようになりたい。

料理はしたことがありますが、料理や食について深く考えたことがなく見直す良い機会になりました。親が育ててくれたこと、当たり前ではないことに感謝して生活しようと思いました。そして、してほしいことをしてあげられるような人間になりたいと思います。失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦していきたいです。

学校に、一人で家族分のごはんのみそ汁の朝ご飯を作れる人が、自分も含めて30人ぐらいしかいないのに驚きました。作れと言われて作っていたので、毎日は無理かもしれないけど、できる日は手伝ったりして、少しでも家族が休める時間を作ってあげたいと思いました。また、料理の種類が少ないので、調べたりしてたくさん料理が作れるようになりたいです。

私は普段から料理をしています。それを食べて「おいしい」と言ってもらえるとうれしいです。また、朝ご飯を作れる人が少ないことに驚きました。今回のお話から、食だけでなく「ヒトが人」に変わる方法や、実践してきた人たちのことを知ることができて、すごくいい時間でした。これからの生き方、考え方が変わり、自分の人生一度きりだから楽しく生きていきたいです。

「してほしいことをする人が成長する」、「心の中に感謝の気持ちがあれば、人生明るい、逆に憎しみの気持ちがあれば、人は成長しない」、「取り返しのつく失敗で、取り返しのつかない失敗を防ぐことができる」、などたくさんの言葉をメモしました。私は、今までごはんを作ってもらうことが、当たり前だと思っていました。でも、今日の話聞いて、これから変われるように努力したいです。

料理は苦手ですが、両親の帰りの遅いときなど、1、2品作るようにしています。作るといつも「ありがとう」、「とてもおいしいよ」と言ってもらえてうれしいです。これからも自分のためだけでなく、自分の子どものことなども考えて食べたり作ったりしたいと思いました。

「20才までにベビーベッドと毛布ができあがるから、それまでに栄養を取らないといけない。」今は体が成長しているからこそ、きちんと食事をとることが大切だということが分かりました。「食べたい物が出してもらえないなら自分で作ればいい」というセリフがあった本を思い出して、両親がいない時が多い我が家ではツイッターなどでオススメ料理などを作るいい機会だと思いました。祖母に負担がかからないようにしたいとも思いました。